

一 般 質 問

病院建設は町民理解が不可欠!

広 田 清 晴 議員

問 今回の大島病院建設の問題点は外的要因（資財の高騰）内的要因（町民に対する説明責任の欠如 企業管理者と現場病院長との風通しの悪さ）であり、分けて考える必要がある。企業局に対し度々「説明責任を果たすよう」求めたが、無視された。ここに最大の問題がある。謝罪と対応を求める。

答（企業局）2回説明会を行ったので、無視したとは考えていない。しかし現在の状況を考えれば不十分であった。今後十分説



明責任を果たす。

問 大島病院建設が他の病院と対立的にとられ、東和病院が潰れるとか、橘病院が診療所になるとの誤解を生んでいる。早急に、この誤解を解くよう求める。

答（企業局）対応する。

問 今回内部告発された院長と「数字の大きな違い、企業局の全体予算、町の予算など」につき4回対話した。「情報が狭かったなかでの間違いは正す」といわれていた。本来は企業局内部の問題である。責任の所在を明らかにすると共に施設長事務局長会議を開くよう求める。

詳細設計の段階で地中杭8億円の変更理由は考えられない。基本設計に問題がある。

答（企業局）基本設計の段階では調査できなかった。

今、大災害を教訓に!!

尾 元 武 議員

問 台風、地震、豪雨等異常な事象が発生した場合、町として計画に沿って行動するのは当然であるが、普段から職員による定期的な訓練の実施や消防・警察・住民を交えた実質的な訓練が緊急時に最も重要と考えるが。

答（町長）災害対策は「周防大島町地域防災計画」に基づき推進している。先般、災害発生時における職員体制の再確認を行い、災害対応マニュアル等の周知徹底を行った。また有人離島の災害危険箇所を船上視察したところ。平成17年度に県総合防災訓練を



本町で実施した経緯を踏まえ、自治会防災訓練補助金を創設。地域主体の防災訓練の指導を実施し、昨年までに6地域が本制度を活用した訓練を行っている。

問 わが国の食糧自給率は39%である。少子高齢化、生産物の価格低迷等により、耕作面積は減少し休耕田、荒地と化すばかり。再度耕作可能にするのも重要であるが、まず現状をいかに維持していくか、真剣に検討すべきでは。

答（町長）平成18年度に担い手支援センターを設立し、以来6.3haの農地を新たな耕作者へ引き継いでいる。また多様な担い手確保として、みかんサポータークラブを支援している。収穫等の農作業に携わり年々増加の状況にある。

その他 公共物の耐震性、高潮時に冠水する地域の高潮対策、危険溜め池対策等について質問した。